

一般社団法人日本老年歯科医学会 2023 年度第 4 回理事会議事録案

日時：2023 年 6 月 15 日（木）15：00～18：00

TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワー バンケット B

出席者

水口俊介 理事長

羽村 章、片倉 朗 各副理事長

上田貴之、池邊一典、小野高裕、山崎 裕、會田英紀、菊谷 武、古屋純一、吉田光由、松尾浩一郎、

河相安彦、渡邊 裕、大神浩一郎、菅野亜紀、柏崎晴彦、高橋一也、岩佐康行、平野浩彦、大野友久、

阪口英夫、田中 彰、糸田昌隆、服部佳功、越野 寿、枝広あや子、金澤 学 各理事（28 名）

山根源之、森戸光彦 各監事（2 名）

陪席

鈴木啓之、竜 正大、高橋利士、奥野健太郎、奥村拓真、吉見佳那子、畑中幸子、高橋賢晃、古屋裕康

伊藤誠康、渡邊理沙、大久保真衣、川本章代、遠藤眞美、白部麻樹、貴島真佐子、田中恭恵

豊下祥史、森下志穂 各幹事（19 名）

渡邊郁馬、山根 瞳、福島正義 各名誉会員

米山武義氏

古澤朝美 事務局

欠席者

弘中祥司、戸原玄 各理事

山添淳一、尾崎研一郎、日高玲奈、若杉葉子、吉岡裕雄、尾立 光 各幹事

I. 開会の辞（羽村副理事長）

羽村副理事長より、開会の辞が述べられた。

II. 理事長挨拶

水口理事長より、大変多くの審議事項があるが、時間を守りつつ慎重に審議を行っていきたい旨が伝えられた。

III. 議長選出

定款第 32 条に従い、水口理事長が議長として選出された。

IV. 確認事項

1. 定足数の確認〔定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上の出席〕

上田理事（総務担当）より、定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上である 26 名の出席があり、定足数を満たしていることが確認された。

2. 2022 年度第 11、12 回理事会議事録（JSG プラットフォーム参照）

2023 年度第 1、2、3 回理事会議事録（JSG プラットフォーム参照）

上田理事（総務担当）より、以下の通り、議事録が確定したことが報告された。

V. 協議事項

1. 2022年度事業報告及び収支決算について（総会資料、p.1-6）

水口理事長より、2022年度事業報告について資料を用いて説明され、承認された。山崎財務担当理事より、収支決算について資料を用いて説明された。また、山根監事より監査報告がなされ、監査の結果（5月14日）、問題なく適正な学会運営がなされていることが報告され、承認された。

2. 2023年度事業計画及び収支予算について（総会資料、p.7-8）

水口理事長より、2023年度事業計画（案）について説明がなされ、承認された。所掌の委員会の各委員においては、本理事会にて承認された事業計画を念頭に、委員会活動を頂きたいとの依頼がなされた。また、山崎財務担当理事より、2023年度収支予算（案）について資料を用いて説明がなされ、承認された。

3. 学術大会実施に関する規則 一部改正について（p.9-10）

上田理事（総務担当）より、学術大会実施に関する規則の一部改正について、資料を用いて説明され、承認された。

- ・学術大会の参加費に関する改正（昨今の物価上昇、オンライン開催に関わる費用などへの対応）であり、一律での値上げではなく、参加費の上限を設定する改正であることが説明された。参加者区分ごとに、参加費を増額したことが説明された。
- ・オンライン媒体の利用に関しては、大会長より必要性を常任理事会に上程の後、常任理事会にて審議することを規定として設定したことが説明された。
- ・規定に掲載されている、非会員の参加費（課税対象）については、税込みでの記載となっていることが合わせて説明され、規定内に（会員については非課税、非会員については消費税込み）と明記することが合わせて説明された。

4. 業務に係わる旅費等支給規則 一部改正について（p.11）

山崎理事（財務担当）より、業務に係わる旅費等支給規則の一部改正について、資料を用いて説明され、承認された。

- ・会員旅費に関する宿泊費の規定を、現状10,000円としていたものを、昨今の物価上昇を鑑みて、上限20,000円と修正するものであることが説明された。
- ・今後の社会情勢を検討しながら、改めて適切な時期に規定を修正する可能性もあることが水口理事長より説明された。

5. 新規入会者の承認について（p.12-17）

上田理事（総務担当）より、新規入会者について資料を用いて説明がなされ、220名の新規入会が承認された。

VI. 報告事項

1. 会務報告（水口理事長）

1) 取材関係（p.18）

水口理事長より、賛助会員の株式会社ジーシーよりオーラルフレイル、口腔機能低下症に関する啓発用ポスターに対しての監修依頼があったことが説明され、本学会が監修したポスターを第34回学術大会中に配布されることが報告された。

老年歯科に関連する様々な情報が、本学会に寄せられることから、関連する委員会においては、それぞれに対する対応にご協力いただきたい旨の依頼がなされた。

2) その他

水口理事長より、日本歯科専門医機構における総合歯科専門医（仮称）に関する進捗について説明され、研修プログラムについて決定し、研修方法については現在検討中であること、研修手帳などの整

備を行っている（7月の日本歯科専門医機構との協議において決定することを予定）ことが報告された。研修機関に関する検討は、これらの内容が確定した段階で、検討することとなることも合わせて報告された。研修機関については、日本歯科専門医機構より求められる要件（研修機関に勤務している指導医の数や勤務形態など）に合致する必要があるため、その要件についても吟味しつつ、3学会間での研修機関に関する内容が固まったところで、各理事や該当する研修機関よりご意見を頂きたいと考えていることが協力を要請する予定であることが報告された。また、現在のシステムからの移行に関しては、研修機関等に関する事項が確定したところで、検討することを予定しており、正式稼働については、まだ時間がかかると思われるものの、着実に協議が進んでいることが報告された。

水口理事長より、摂食嚥下リハビリテーション学会から依頼があった、摂食嚥下リハビリテーション認定士と日本老年歯科医学会の摂食嚥下療法専門歯科医師との連携について報告され、吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会）を中心に検討いただきたいことが説明された。

2. 総務報告（上田理事）

1) 会員状況

上田理事（総務担当）より、学会会員人数や変化、会員構成などについて、資料を用いて説明された。

2) 今後の会議スケジュール (p.19)

上田理事（総務担当）より、今後の会議スケジュールについて、資料を用いて説明された。

9月の理事会にて協議が必要な内容は、8月の常任理事会に上程いただきたい旨の依頼がなされた。

3) 人事および講座名 等

上田理事（総務担当）より、講座の名称変更や人事異動に関する内容について、事務局もしくは総務宛に、メールにてご連絡いただきたい旨の依頼がなされた。

4) 役員名簿 (p.20-22)

上田理事（総務担当）より、2022 - 2023 年度役員構成について、資料を用いて説明された。

3. 学術報告（総会資料参照）

1) 学術委員会報告（池邊委員長）

池邊理事（学術委員会委員長）より、学術委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

2022 年度においては、口腔機能低下症に関する検討（ワーキンググループを立ち上げて検討を継続実施）、症例報告や認定審査ポスター抄録様式の統一、査読基準の統一を実施したこと、多施設共同研究支援クラウドに関しては廃止（2023 年 3 月）、JSG-EXAM7 に関しては 2023 年 12 月までに目標（1500 件）に達しない場合には、継続しないことを決定したことが報告された。

2023 年度については、第 35 回学術大会への対応、演題登録オンラインシステムの改修への対応を予定していることが説明された。

2) 口腔機能低下症ワーキンググループ（池邊委員長）

池邊理事（学術委員会委員長）より、口腔機能低下症ワーキンググループの 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

また、回覧資料を用いて、オーラルフレイルの概念図を、第 34 回学術大会にて素案を提出する予定であることが報告され、このオーラルフレイルに関しては、日本老年医学会、日本フレイルサルコペニア学会、本会の 3 学会にてワーキングを実施し検討を行っていることが報告された。

平野理事より、オーラルフレイルの定義の約 10 年間の変遷や、3 学会合同のオーラルフレイルの概念についてのランチョンセミナー（サンスターによるスポンサードセッション）を学術大会中に実施することが報告された。

菊谷理事（第 34 回学術大会大会長）より、本学会のランチョンセミナーについては、先着順でのご案内になることが説明された。

3) IAGG-AOR2023 (池邊、小野、松尾 各理事)

松尾理事 (渉外担当) より、IAGG-AOR2023 へのご参加、ご協力への御礼が述べられた。30 カ国以上から 1700 名以上の参加があったことが報告され、老年歯科関連については、3 つのシンポジウムと 1 つのスポンサードシンポジウムを開催したことが報告された。

IAGG-AOR2023 において、老年歯科関連で開催したシンポジウムについて説明されるとともに、今後の IAGG2026 は 7 月 5 日～9 日オランダ、アムステルダムにて、IAGG-AOR2028 は 6 月 13 日～15 日にマレーシアのクアラルンプール、IAGG2030 はオーストラリア/ニュージーランドでの開催が決定していることが報告された。

IAGG-AOR については、次期理事長として荒井秀典先生、次期幹事として松尾理事が決定しており、IAGG-AOR において歯科関連の内容も充実していきたいと考えていることから、今後マレーシアを含む東南アジア諸国と連携を図っていく予定であり、理事の先生方にもご協力を頂きたい旨の依頼がなされた。

4) 第 34 回学術大会 (菊谷大会長)

菊谷理事 (第 34 回学術大会大会長) より、第 34 回学術大会開催のご挨拶、無事に当日を迎えられたことへの御礼がなされた。

事前登録の段階で、1600 名の参加者が見込まれていることが報告され、合同学会の利点を活かして、ぜひ他学会のシンポジウムや発表もお楽しみ頂きつつ、懇親会についてもぜひお楽しみいただきたいとの依頼があった。

歯科関係の企業参加への、各理事の先生方のご協力を頂いたことに対する、御礼が述べられた。

5) 第 35 回学術大会 (山崎大会長)

山崎理事 (第 35 回学術大会大会長) より、第 35 回学術大会 (6 月 28 日～30 日、札幌コンベンションセンター) の概要、開催方式予定 (現地開催＋一部を後日オンデマンド配信)、準備状況について説明された。

学術大会のテーマ「人生 100 年時代を切り拓く～口腔の健康を通して～」とし、ポスター、学術大会 PR 動画を作成し本学会中にお披露目させて頂く予定であることが報告され、ホームページの開設準備をすすめていることが説明された。また、単独開催のメリットを活かして、一般演題を含めて広く応募したいと考えており、開催時期の北海道は非常によい季節であることから、ぜひ多くの会員に会場いただきたいとの依頼がなされた。

6) 第 36 回学術大会 (片倉大会長候補)

片倉副理事長 (第 36 回学術大会大会長候補) より、第 36 回学術大会 (6 月 27 日～29 日、幕張メッセ・東京ベイ幕張ホール、第 34 回日本老年歯科医学会総会、8 学会合同の学術大会) 大会長候補としてのご挨拶がなされ、盛会となるよう、ぜひ理事の先生方にもご協力いただきたい旨の依頼がなされた。

4. 編集報告 (小野委員長)

小野理事 (編集委員会委員長) より、編集委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

- ・老年歯科医学の電子アーカイブ化に関わり、著作権譲渡に関する承諾はオプトアウトにて 2009 年の時点で承諾を得ていることが報告され、2009 年～2018 年の学術大会事後抄録のデータ化と J-STAGE 掲載を開始したことが報告された。
- ・老年歯科医学への投稿論文数が減少傾向にあり、各理事の先生方より、是非とも積極的な老年歯科医学への投稿にご協力いただきたいとの依頼がなされた。また、今後総説論文の依頼なども行う予定であることから、その点についてもご協力いただきたいことが依頼された。さらに、歯科衛生士委員会などの関連委員会と連携して投稿論文を広く募集していきたいと考えていることが報告された。
- ・奥野幹事 (編集委員会幹事) よりも、積極的な論文投稿への依頼がなされた。

- ・水口理事長より、常任理事会において、老年歯科医学への投稿推進方策の一つとして、優秀奨励論文賞（ライオンアワード）として選定される2論文のうち、1編を英文誌から、1編を和文誌からとすることが編集委員会からの提案があり、常任理事会にて承認されたことが報告され、選定方法などを理事会や所掌である表彰委員会にて検討していただきたい旨の依頼がなされ、方法は理事長および表彰委員長に一任とすることが確認された。
- ・平野理事より、優秀奨励論文賞（ライオンアワード）を日本語版と英語版と分けるのであれば、名称の変更の検討や、新たなアワードを設定することを検討したほうがよいのではとの意見がなされ、常任理事会における意見として、今後の投稿論文のクオリティをより向上することを目的とした変更として検討していることが説明された。
- ・田中理事より、優秀奨励論文賞については、優れた若手研究者を育成することを目的としたものであることが説明され、今後時代の流れに合わせて継続的に検討していきたいとの意見がなされた。
- ・上田理事より、学術誌の論文掲載数や発行数などについては、日本歯科医学会専門分科会の要件の一つとなっていることから、ぜひ理事の先生方がご所属されている講座より老年歯科医学への投稿を積極的にお願ひしたいとの依頼がなされた。

5. 財務報告（山崎委員長）

山崎理事（財務委員会委員長）より、財務委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

6. 各種委員会2022年度活動報告および2023年度活動計画

1) 教育委員会（會田委員長）

・老年歯科医学教育の実態調査（アンケート）の進捗状況

會田理事（教育委員会委員長）より、教育委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

学術大会におけるシンポジウムへのご参加依頼がなされるとともに、生体モニターに関するアンケート内容については、学術大会終了後にメールにて理事会内でご確認頂く予定となっていること、老年歯科医学の実態調査についてはアンケートシステムを構築しているところであり、今後各理事の先生方には、各大学の回答責任者としてご協力いただきたい旨が説明された。

2) 社会保険委員会（菊谷委員長）

菊谷理事（社会保険委員会委員長）より、社会保険委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

診療報酬、介護報酬改訂に関する内容についてのワークショップを開催（関連各委員会や多職種が参加し、医療技術報告書・提案書の作成・提出（未収載のもの5件、既収載のもの7件）を行ったことが説明された。

今後は、提出した報告書・提案書に対するヒアリングなどに対応していく予定であることが報告された。

3) ガイドライン委員会（戸原委員長）

吉見幹事（ガイドライン委員会幹事）より、ガイドライン委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

2022年度は、脳卒中ガイドラインの改訂作業、日本補綴歯科学会・日本歯科保存学会のガイドラインに対する外部評価を実施したことが報告された。また、学会協力事業として、厚労科研事業「生活期におけるリハ・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドラインおよびマニュアルの整備に資する研究」におけるガイドライン作成業務については、2023年度も継続して実施していく予定であることが説明された。

4) 在宅歯科医療委員会（古屋委員長）

古屋理事（在宅歯科医療委員会委員長）より、在宅歯科医療委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

終末期歯科医療に関するステイトメント案、歯科訪問診療における感染予防策の指針改訂について継続的に取り組んでいることが報告された。また、歯科衛生士関連委員会と連携し、「高齢者施設職員向け口腔ケアの手引き」に関する動画およびリーフレットを作成・改訂したこと、訪問歯科診療に対するテキストとして「よくわかる訪問歯科診療」に対する編集協力を行ったことが報告された。

歯科訪問診療に関するアンケート調査の集計状況（例：歯科訪問診療での悩みについては、経験年数が高くなると増えていく傾向にあった）に関して報告され、この内容の一部については、学会大会のシンポジウムにて発表予定であることが説明された。また、何らかの形で老年歯科医学に発表したいと考えていることが説明された。

5) 摂食嚥下リハビリテーション委員会（吉田委員長）

吉田理事（摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）より、摂食嚥下リハビリテーション委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

摂食機能療法専門歯科医師の認定方法に関する変更し、その詳細をホームページにて周知しているため、摂食機能療法専門歯科医師取得を検討している先生は確認していただきたい旨が説明された。

6) 渉外委員会（松尾委員長）

松尾理事（渉外委員会委員長）より、渉外委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

2023年9月15日～17日にECGがストックホルムにて開催、JSGセッションとして老年歯科医学会からは古屋理事（訪問歯科に関連する内容）、菅野理事（高齢者歯科における歯科衛生士の担う役割）が参加することが報告され、大会テーマやトピックについても本会との親和性が高いと考えられることから、演題登録は締め切られているものの、ぜひ会員の先生方もご参加いただきたいとの依頼がなされた。

7) 広報委員会（河相委員長）

河相理事（広報委員会委員長）より、広報委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

学会広報媒体として、缶バッジ（今後も各学会大会にて作成を検討したい）、大型パネル（SNS拡散用、#JSG2023をつけていただく）を設置していること、学会キャラクターのぬいぐるみが完成した旨が報告された。

各委員会や支部等からの情報提供について、広報も協力して行っていきたいと考えていることから、各委員会や支部等から発信したいことがあれば、広報委員会へご連絡いただくよう依頼がなされた。

学会大会カウントダウン動画撮影へのご協力に関する御礼が述べられた。

8) 研修委員会（渡邊委員長）

渡邊理事（研修委員会委員長）より、研修委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

今年度のオンライン研修会については、地域包括委員会から3回、特任委員会から3回の開催がすでに決定している旨が報告され、その他委員会からも企画案をご提案いただきたいとの依頼がなされた。

また、老年歯科医学会の研修会は無料でやっているのぜひ会員へのご周知をお願いしたいとの依頼がなされた。

9) 学術用語委員会（大神委員長）

大神理事（学術用語委員会委員長）より、学術用語委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

2023年3月に老年歯科医学用語集が出版されたことが報告され、ご執筆いただいた先生や校閲作業にご協力頂いた編集委員会、ご協力いただいた先生方への御礼が述べられた。

今後については、法令改正などに伴う用語修正や新出用語の解説等への対応を予定していることが説明され、学術用語委員会シンポジウムへの参加依頼がなされた。

10) 歯科衛生士関連委員会（菅野委員長）

菅野理事（歯科衛生士関連委員会委員長）より、歯科衛生士関連委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

老健事業への一環として在宅歯科診療委員会と協力して、「高齢者施設職員向け口腔ケアの手引き」に関するリーフレットと動画作成を行ったこと、歯科衛生士研究支援ワーキングを立ち上げ、Web アンケート（歯科衛生士会員の研究に対する意識調査を目的）を実施したことが報告された。アンケートの結果、研究を行いたいと考えている歯科衛生士会員が 70%以上いることから、研究の知識を身に付けられるような e ラーニングを実施することを予定しており、今後、歯科衛生士会員へ研究へのご指導、ご協力いただきたいとの依頼がなされた。

また、認定歯科衛生士数を今後増やしていきたいと考えていることから、各理事の勤務先で該当する歯科衛生士がいれば、ぜひご推薦いただくよう依頼がなされた。

11) 認定制度委員会（柏崎委員長）

柏崎理事（認定制度委員会委員長）より、認定制度委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

適切な評価を実施できること、さらには機構認定専門医制度に対応できることを念頭に、認定審査に関する評価の見直しを行っており、来年度の認定審査より開始できるように準備をすすめていることが報告され、今後も日本歯科専門医機構による専門医制度の構築に対応できるよう、認定制度の内容の検討を継続していくことが説明された。

今年度の認定医試験受験者は 39 名を予定しており、審査などにご協力いただいている理事の先生方への御礼が述べられた。

12) 専門医試験問題委員会（高橋委員長）

高橋理事（専門医試験問題委員会委員長）より、専門医試験問題委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

専門医試験に関する参考図書の見直し（次回専門医試験受験者より適用）を実施したこと、代議員により作成された専門医試験問題のブラッシュアップを実施したこと、専門医制度指導医申請者に対する筆記試験を実施したことが報告された。

専門医試験問題の作成の締切が 6 月 30 日となることから、作成へのご協力に対する依頼がなされ、今後は認定制度審査方法の変更に伴い、試験問題のあり方を検討しつつ新しい形の試験問題の作成を行っていく予定であることが報告された。

13) 地域包括ケア委員会（岩佐委員長）

岩佐理事（地域包括ケア委員会委員長）より、地域包括ケア委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

今年度、地域包括ケア委員会主催の研修会（9 月 4 日、10 月 6 日、「ICT を用いて多職種連携」）を予定していること、多職種連携に役立つ用語集として、介護職との連携に役立つ用語集の作成を予定していることが報告された。

14) 支部運営委員会（平野委員長）

平野理事（支部運営委員会委員長）より、支部運営委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

支部長会開催に関する調整や、本学術大会会期中において、委員会主催のシンポジウムを企画下経緯に関して説明された。

15) 病院歯科委員会（大野委員長）

大野理事（病院歯科委員会委員長）より、病院歯科委員会の 2022 年度活動報告および 2023 年度活動計画について、資料を用いて説明された。

病院歯科医院会主催のシンポジウムへのご参加依頼がなされるとともに、日本歯科医学会のプロジェクト研究が終了しており、論文化を勧めている（1本は和文誌に掲載、その他2本については執筆中）ことと、社会保険委員会と協力して、医療技術提案書を作成したことが報告された。

病院歯科に所属しているの歯科医師間の横のつながりを強化できるように、病院歯科に所属している学会員をつなぐメーリングリストの作成などを検討していることが報告された。

16) 表彰委員会（田中委員長）

田中理事（表彰委員会委員長）より、表彰委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

明日からの学術大会でのコンペティションに対する準備状況が説明されるとともに、今大会より、表彰楯の刷新を検討していることが報告された。

17) 規程委員会（阪口委員長）

阪口理事（規定委員会委員長）より、規定委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

18) 倫理委員会（服部委員長）

服部理事（倫理委員会委員長）より、倫理委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

「学術大会に係る研究倫理指針」等と、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」との整合性の検討を実施していることが報告され、今後、専門医機構に対応可能な倫理指針を検討していくことが説明された。

19) 倫理審査委員会（糸田委員長）

糸田理事（倫理審査委員会委員長）より、倫理審査委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

個別倫理審査において時間がかかっていた経緯もあることから、倫理審査を円滑に実施できるよう、倫理審査申請書のフォーマット変更を行っていく予定であることが説明された。

20) 利益相反委員会（越野委員長）

越野理事（利益相反委員会委員長）より、利益相反委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

学術大会時において適切なCOI開示をご周知いただきたいとの依頼がなされた。

21) 特任（老健事業）委員会（渡邊委員長）(p.48-53)

渡邊理事（特任（老健事業）委員会委員長）より、特任（老健事業）委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

2022年度事業においては、無事に報告書の提出が完了したことが報告され、関連各委員会への御礼が述べられた。また、2023年度も老健事業に採択されたことが報告され、今後事業を実施していく予定であることがあわせて説明され、ご協力頂きたい旨が依頼された。

歯科医師とケアマネージャーとの在宅での連携や、介護職が実施可能な口腔衛生状態の評価に関する情報提供を厚生労働省から求められていることが報告された。

22) 特任（認知症）委員会（枝広委員長）

枝広理事（特任（認知症）委員会委員長）より、特任（認知症）委員会の2022年度活動報告および2023年度活動計画について、資料を用いて説明された。

総合歯科専門医の研修プログラムとして、認知症に関連するものを盛り込むことを検討していること、オン・ザ・ジョブ・トレーニングが可能な歯科医療機関のリストの作成などを検討していること、日本老年歯科医学会会員向けの教育教材を検討していることが報告され、社会保険委員会と協力し、医療技

術提案書を作成したことがあわせて報告された。

7. 日本歯科医学会報告（水口理事長）

水口理事長より日本歯科医学会について、次期歯科医学会会長として、住友先生が4期目に突入したことが報告され、2025年の大阪万博への協力を日本歯科医師会として予定していることが報告された。

8. 日本歯科医学会連合報告（水口理事長）

水口理事長より日本歯科医学会連合について、日本歯科医学会連合会長の高橋英登先生が日本歯科医師会の新会長として就任される予定であることが報告された。

9. 日本歯学系学会協議会報告（羽村副理事長）

羽村副理事長より日本歯学系学会協議会について、6月30日に総会が実施され、その後にWeb講演会（歯科専門医制度の進捗状況について、6月30日15時30分～17時30分）を予定していることが報告され、ぜひご参加いただきたいとの依頼がなされた。詳細な情報については、歯学系学会協議会のホームページをご確認頂きたい旨が説明された。

10. 歯学系学会社会保険委員会連合報告（菊谷理事）

菊谷理事より歯学系学会社会保険委員会連合について、特に報告すべき事項がないことが報告された。

11. 日本歯科専門医機構（水口理事長）

水口理事長より日本歯科専門医機構について、報告され、共通研修についてはシベリアに受講することが求められることから、関連する委員会においてはご協力をお願いしたいとの依頼がなされた。

12. 日本老年学会報告（水口理事長）

水口理事長より、日本老年薬学会が参加することになり、老年学会は8学会が参加することになることが報告された。

日本老年学会の理事の数が、各学会に4名を基本として、会員数に応じて数を増やしていくこと、定員数は54名に増加、老年歯科医学会は7名→8名（2025年までに）となる予定であり、本会としては次期理事交代に合わせて数を変更することを予定していることが報告された。

13. その他

山根監事より、日本の歯学会の中核を担っていく学会として、今後の学会運営に対する激励のお言葉をいただいた。

森戸監事より、事前の登録が名誉会員ではできないという問題もあることから、今後の課題として、名誉会員への学会情報共有も検討した頂きたいとの依頼がなされるとともに、今後の学会運営に対する激励のお言葉をいただいた。

渡邊名誉会員、米山名誉会員、山根名誉会員、福島名誉会員より、激励のお言葉をいただいた。

上田理事（総務担当）より、総会での表彰式においては、写真撮影に関してご協力いただきたいとの依頼がなされた。

VII. 閉会の辞（片倉副理事長）

片倉副理事長より、スムーズな会議運営、積極的な意見交換、学会活動状況に対する御礼とともに、閉会の辞が述べられた。